

平成29年度

共生の森もがみ

ハンドブック



Area Campus MOGAMI HandBook

- エリアキャンパスもがみ 大学事務局
山形大学 小白川キャンパス事務局 教務課教育企画担当
〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL: 023-628-4707
FAX: 023-628-4720
E-Mail: acmogami@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- エリアキャンパスもがみ 最上事務局
〒999-5101 新庄市大字昭和660
TEL&FAX: 0233-32-1890
E-Mail: qqkr3mpd@mkc.jp
- フィールドワークホームページ
<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/>



目次 Contents

授業開設のメッセージ	02
授業計画(シラバス)	03
プログラムマップ	05
アイコンの説明	07

前期

「新庄まつりとオレ」～日本一の山車行列～	09
「作陶に挑戦!」新庄東山焼の世界	10
地域の資源を活かし山屋の魅力を探る	11
マルシェ“本活プロジェクト” ～本と人をつなげる出前図書館～	12
山間地の宝物を探そう	13
歴史的・地域資源の保存と活用を考える	14
森と人との共存を考えるⅠ ～山間地の歴史を探り地域振興へ～	15
大場満郎氏の冒険の心に触れ、 最上を体感しよう!Ⅰ	16
里地里山の再生Ⅰ	17
田舎体験で考える ～豊かな暮らしをつくる生き方働き方～	18
子どもの自然体験活動支援講座Ⅰ	19
【大蔵村】自然・人・もの体験	20
里山体験と蛙川歌舞伎	21
戸沢村の超元気印! 幸齢者集団の生きざまに学ぶ	22
里山保全と山菜料理	23
伝承野菜栽培と郷土料理	24

後期

七所明神伝説と地域活動のあり方を探る	25
新庄伝統の民俗文化も体験しよう ～隠明寺風と昔語り～	26
山間地のお祭りを企画しよう	27
森と人との共存を考えるⅡ ～山間地の文化を探り地域振興へ～	28
大場満郎氏の冒険の心に触れ、 最上を体感しよう!Ⅱ	29
里地里山の再生Ⅱ	30
子どもの自然体験活動支援講座Ⅱ	31
環境保全と総合型地域スポーツクラブ参加体験	32
里山保全とキノコ料理	33
創作太鼓と里山ぐらし体験	34

五感を研ぎ澄ませて 「もがみ」を感じてほしい

山形県最上広域圏は南西に最上川が流れ、大部分が山岳・丘陵地帯の自然豊かで、市町村毎に独自の文化を有する農山村地帯ですが、一方で8市町村のうち6町村が「過疎地域自立促進特別措置法」に基づく過疎地域に指定されています。大学や短期大学などの高等教育機関が一つもない最上広域圏では、長らく大学誘致を悲願としてきました。この要望に応える形で、平成17年4月、山形大学「エリアキャンパスもがみ」が発足しました。

この科目は、地域固有の本物の自然や地域に根差した歴史・文化を活用して、『環境』と『人』とが共生した生活ができる理想的な地域社会の実現を目標としている最上広域圏を、学生諸君に直に感じてもらう科目として企画されました。教育研究施設がないハンディキャップを逆手に取り、個性豊かな8つの市町村をそのまま教育のフィールドとするダイナミックな授業は、他に類を見ない授業であり、自然に恵まれた山形大学でしか実現できないものです。また、受け入れ側の各市町村が、地域の特色を表す講師を提供するとともに、授業実施の全般を担当する形で行われることも特長の一つです。

大学のキャンパスから、広大な最上広域圏に飛び出し、自然・環境・文化・歴史・ひとを体全体で感じながら、自らの成長に役立つ何かを見つけてください。五感をとぎすませば、宝物はすぐ近くにあります。最上広域圏は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。

山形大学エリアキャンパスもがみキャンパス長
小白川キャンパス長 玉手 英利

授業計画 (シラバス)

授業科目名:

前期 フィールドワーク共生の森もがみ

後期 フィールドラーニング共生の森もがみ

担当教員:小田 隆治

担当教員の所属:教育開発連携支援センター

開講学年:1年,2年,3年,4年 開講学期:前期・後期

単位数:2単位 開講形態:講義

授業概要

◎テーマ

自然豊かな最上広域圏でのフィールドワークを通して、地域、文化、歴史、過疎化、少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと一緒に考えます。この科目は、最上広域圏の8市町村そのものをキャンパスとして活動を展開する授業科目として創出されました。この地域を舞台に、「達人講師」の指導の下、8市町村選りすぐりのプログラムが展開されます。もがみを知ること、山形を知り、日本を知り、ひいては世界を知ることにつながっていきます。山形大学に来て良かったと思える授業です。

◎到達目標

課題発見能力、課題探求能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、行動力、社会性の基礎的な力を身につけること。

◎キーワード

山形、エリアキャンパスもがみ、地域社会、プレゼンテーションスキル

授業計画

◎授業の方法

この授業は、各自が以下のプログラムから1つを選択して受講します。各プログラムは、オリエンテーションから始まり、事前学習の後、1泊2日のフィールドワークx2回と、中間学習、事後学習を行います。各回のフィールドワーク終了後に「記録ノート(レポート)」2回目のフィールドワーク終了後に最終レポートを提出してもらいます。また、フィールドワーク終了後には、学びの成果を示す「活動報告会」を行います。これらすべての活動が成績評価の対象となります。

前期

- ①「新庄まつりとオレ」～日本一の山車行列～(新庄市)
- ②「作胸に挑戦!」新庄東山境の世界(新庄市)
- ③地域の資源を活かし山屋の魅力を探る(新庄市)
- ④マルシェ「本活プロジェクト」～本と人をつなげる出前図書館～(新庄市)
- ⑤山間地の宝物を探そう(金山町)
- ⑥歴史的な地域資源の保存と活用を考える(金山町)
- ⑦森と人との共存を考えるⅠ～山間地の歴史を探り地域振興へ～(金山町)
- ⑧大場満郎氏の冒険の心に触れ、最上を体感しよう!Ⅰ(最上町)
- ⑨里地里山の再生Ⅰ(舟形町)
- ⑩田舎体験で考える～豊かな暮らしをつくる生き方動き方～(真室川町)
- ⑪子どもの自然体験活動支援講座Ⅰ(真室川町)
- ⑫「大蔵村」自然・人・もの体験(大蔵村)
- ⑬里山体験と蛙川歌舞伎(蛙川村)
- ⑭戸沢村の超元気印! 幸齢者集団の生きざまに学ぶ(戸沢村)
- ⑮里山保全と山菜料理(戸沢村)
- ⑯伝承野菜栽培と郷土料理(戸沢村)

後期

- ①七所明神伝説と地域活動のあり方を探る(新庄市)
- ②新庄伝統の民俗文化を体験しよう～隠し寺風と昔語り～(新庄市)
- ③山間地のお祭りを企画しよう(金山町)
- ④森と人との共存を考えるⅡ～山間地の文化を探り地域振興へ～(金山町)
- ⑤大場満郎氏の冒険の心に触れ、最上を体感しよう!Ⅱ(最上町)
- ⑥里地里山の再生Ⅱ(舟形町)
- ⑦子どもの自然体験活動支援講座Ⅱ(真室川町)
- ⑧環境保全と総合型地域スポーツクラブ参加体験(蛙川村)
- ⑨里山保全とキノコ料理(戸沢村)
- ⑩創作太鼓と里山ぐらし体験(戸沢村)

授業日程

① 説明会(各プログラムの紹介・プログラム選択希望調査)

前期	4月7日(金) 16:30～ 基盤教育2号館 222教室	後期	10月10日(火) 16:30～ 基盤教育2号館 221教室
----	---------------------------------	----	-----------------------------------

② オリエンテーション(班顔合わせ・役割決め・フィールドワークの心構えについて)

前期	4月25日(火) 16:30～ 基盤教育2号館 221教室	後期	10月17日(火) 16:30～ 基盤教育2号館 221教室
----	----------------------------------	----	-----------------------------------

③ フィールドワーク活動期間

前期	5月13日(土)～7月9日(日)	後期	10月28日(土)～1月21日(日)
----	------------------	----	--------------------

④ 活動報告会

前期	7月21日(金) 16:30～ 基盤教育2号館 221教室	後期	2月2日(金) 16:30～ 基盤教育2号館 221教室
----	----------------------------------	----	---------------------------------

学習の方法

▼受講のあり方

- 1 安全第一を心がけ、積極的に活動に参加してください。
- 2 専門分野の方法論や数値的なデータだけではなく、フィールドワーク(あるく・みる・きく)で集めたデータをもとに考えるよう心がけてください。[現場で考える][体で考える](もちろん頭も使います)ことが合言葉!そして、自分の想像力を大事にしてください。

▼授業時間外学習へのアドバイス

- 1 オリエンテーションで配布される「しおり」を熟読し、内容を理解して授業に臨んでください。
- 2 オリエンテーションでの詳細説明に基づき①事前学習、②記録ノート(1回目)、③中間学習、④記録ノート(2回目)、⑤最終レポートに取り組んでください。
- 3 フィールドワーク終了後、活動報告会に向けて準備を進めてください。方法については説明会を開催します。発表指導を2回以上行います。

成績の評価

▼基準

- 1 地域での活動により課題を発見し、探求により深い、活動報告会の発表により他者に伝える事が出来たかどうかを評価の基準とします。
- 2 一連のグループ学習の中でコミュニケーション能力や主体的学習力、社会性などを発揮できる事を評価の基準とします。

▼方法

フィールドワーク活動への参加度 30% / 活動報告会での発表の完成度 20% / 現地講師による活動評価 40% / 受講生による相互評価 10%

テキスト・参考書

オリエンテーションで配布する「しおり」を参照の他、参加中に地域で配布される資料を活用してください。

その他

▼学生のみなさんへのメッセージ

最上広域圏は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。是非、もがみを見て、聞いて、感じて(味わって)、[共生の森]のパワーを体全体で吸収してきてください。大学から最上広域圏までは借り上げバスを利用し、最上広域圏内の移動は、各市町村で手配します。プログラムによっては、宿泊や実技体験を伴いますので、参加が必要となります。(詳細は、説明会の際に説明します。)

▼オフィス・アワー

オフィス・アワーはありませんが、この授業の運営に協力する小白川キャンパス事務部教務課の事務職員が窓口にあたります。(学生センター内エリアキャンパスもがみ事務局・小白川キャンパス事務部教務課:023-628-4707)

プログラムマップ



前期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
①「新庄まつりとオレ」 ～日本一の山車行列～	新庄市	6月17・18日	7月8・9日
②「作陶に挑戦！」新庄東山焼の世界	新庄市	6月17・18日	7月8・9日
③地域の資源を活かし山屋の魅力を探る	新庄市	6月3・4日	7月1・2日
④マルシェ「本活プロジェクト」 ～本と人をつなげる出前図書館～	新庄市	5月20・21日	6月17・18日
⑤山間地の宝物を探そう	金山町	6月24・25日	7月8・9日
⑥歴史的地域資源の保存と活用を考える	金山町	5月13・14日	7月8・9日
⑦森と人との共存も考えるⅠ ～山間地の歴史も探り地域振興へ～	金山町	5月13・14日	6月10・11日
⑧大場満郎氏の冒険の心に触れ、 最上を体感しよう！Ⅰ	最上町	5月20・21日	6月17・18日
⑨里地里山の再生Ⅰ	舟形町	5月27・28日	6月3・4日
⑩田舎体験で考える ～豊かな暮らしをつくる生き方働き方～	真室川町	6月3・4日	7月8・9日
⑪子どもの自然体験活動支援講座Ⅰ	真室川町	6月10・11日	7月8・9日
⑫【大蔵村】自然・人・もの体験	大蔵村	5月27・28日	6月3・4日
⑬里山体験と鮭川歌舞伎	鮭川村	5月27・28日	6月10・11日
⑭戸沢村の超元気印！ 幸齢者集団の生きざまに学ぶ	戸沢村	5月27・28日	6月24・25日
⑮里山保全と山菜料理	戸沢村	5月27・28日	6月24・25日
⑯伝承野菜栽培と郷土料理	戸沢村	6月10・11日	7月8・9日

後期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
①七所明神伝説と地域活動のあり方を探る	新庄市	10月28・29日	1月13・14日
②新庄伝統の民俗文化も体験しよう ～隠明寺風と昔語り～	新庄市	11月11・12日	11月18・19日
③山間地のお祭りも企画しよう	金山町	10月28・29日	12月9・10日
④森と人との共存も考えるⅡ ～山間地の文化も探り地域振興へ～	金山町	12月9・10日	1月6・7日
⑤大場満郎氏の冒険の心に触れ、 最上を体感しよう！Ⅱ	最上町	10月28・29日	11月25・26日
⑥里地里山の再生Ⅱ	舟形町	10月28・29日	11月18・19日
⑦子どもの自然体験活動支援講座Ⅱ	真室川町	12月9・10日	1月6・7日
⑧環境保全と総合型地域スポーツクラブ参加体験	鮭川村	10月28・29日	12月16・17日
⑨里山保全とキノコ料理	戸沢村	10月28・29日	11月18・19日
⑩創作太鼓と里山ぐらし体験	戸沢村	12月9・10日	1月20・21日

アイコンについて

プログラムの内容やジャンルを分かりやすく示しています。
アイコンは8つに分類されており、
プログラム選択時の参考としてください。

1.料理体験・調理実習



地域の方々と一緒に郷土料理づくりやそば打ちなどを行います。

2.イベント運営・祭り体験



イベントやお祭りの企画立案や運営のお手伝いなどを行います。

3.工芸品・民芸品づくり



陶芸や地域に伝わる伝統工芸などを製作します。

4.子ども達とのふれあい・交流



子ども達と一緒に遊んだり、活動したりします。

5.トレッキング・自然散策



自然に触れながら山登りや、生物の調査などを行います。

6.農業体験



田植えや収穫体験、山菜採りなどを行います。

7.環境保全活動



河川や森の環境整備や保護活動を行います。

8.雪上活動



雪かきや雪遊びなどを行います。



前期
P.09~



後期
P.25~

新庄市 「新庄まつりとオレ」～日本一の山車行列～



目的・概要

「新庄まつり」は、毎年8月24日から26日まで3日間にわたって開催され、50万人の人出でにぎわう東北有数の祭りとして、また、東北の夏祭りをしめくくるにふさわしい伝統の祭りとして、脚光を浴びている。平成21年には、国重要無形民俗文化財に指定されたほか、平成28年にはユネスコに登録され、さらに知名度は上昇している。そのまつりのメインを飾るのが豪華絢爛な山車(やたい)パレードであるが、本講義では、新庄まつりについて学び、そして、学生が主体となるタウンミーティングを開催し、若い力でまつりのPRに多くに貢献してほしい。また、まつり本番を控え、街中がまつり一色となっている新庄市を体感してもらい、地域の伝統を誇る「新庄まつり」の魅力を、大学生の視点で探してほしい。

授業計画

1 回目の訪問

平成29年6月17日、18日

- 1日目 新庄まつりを知る
- 2日目 タウンミーティング企画

2 回目の訪問

平成29年7月8日、9日

- 1日目 タウンミーティング準備
- 2日目 タウンミーティング開催

講師・担当者

新庄山車連盟会長
新庄山車連盟顧問

木村 満
林 泰夫
野川北山
(山車人形師)
川崎昭栄
羽賀千尋

新庄山車連盟相談役

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

新庄市 「作陶に挑戦！」新庄東山焼の世界



目的・概要

1842年の開業以来、5代にわたり受け継がれてきた新庄東山焼の伝統と芸術性あふれる焼き物の魅力を体験することができる。東山焼ならではの土や釉薬作り、焼き方等を6代目が分かりやすく解説する。ろくろ回し体験や自分の作った作品を記念に残すことができるのも本プログラムの魅力の一つである。

授業計画

1 回目の訪問

平成29年6月17日、18日

- 1日目 講義「焼き物の歴史」
山から粘土取り
匠の実演「ろくろ回し」
ろくろ回し体験①
- 2日目 各地の有名な焼き物比較
皿づくり実習
ろくろ回し体験②

2 回目の訪問

平成29年7月8日、9日

- 1日目 講義「釉薬の歴史」
釉薬調合体験
釉薬を焼き物につける体験
- 2日目 本焼き作業「窯つめ&窯焚き」
活動総括

講師・担当者

新庄東山焼弥瓶窯

涌井正和

昨年の受講生の感想

医学部 戸屋 颯太

作るまでの作業自体はかなり単純ですが、単純だからこそ良いものを作るにはとても高い技術が要求されること、生半可な気持ちでは陶芸の道を極めることはできないということも分かりました。自分がこの4日間を過ごして強い感銘を受けたように、焼き物についてまったく知らない人でも新庄東山焼体験はとても楽しめると思うので、大変貴重な経験になると思うので、ぜひもっと多くの人に体験してほしいと思いました。

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

新庄市 地域の資源を活かし山屋の魅力を探る



目的・概要 山屋地区を舞台として、この時期に旬を迎える筍を味わう“たけのこまつり”への参加、また、空蔵山登山やキャンプ場での活動、薬師堂や観音菩薩の歴史遺産の探索など、さまざまな体験を通して当地区のもつ豊かな自然や歴史を学んでもらう。そして、地域住民や子ども達との交流を通して、地域資源を活かした山屋地区の魅力を探ってもらおう。

1回目の訪問

平成29年6月3日、4日

1日目 山屋の自然探索
空蔵山登山
たけのこまつり

2日目 地域活性化イベント
地域との球技交流

2回目の訪問

平成29年7月1日、2日

1日目 多目的広場(公園)整備
地域との交流

2日目 活動振り返り
まとめ及び提言の発表

講師・担当者

山屋地区有志の会 会長 押切明弘

昨年の受講生の感想 農学部 山中 佑太

タケノコ収穫や蛭蚕寮で山屋の自然に触れ、地域の方々との交流で山屋の魅力を発見し、「山屋地区の活性化」「農業の後継者不足」の問題点について考えた。私は、後継者不足や高齢化問題などの言葉をこれまでに何度も聞いてきたが、あまり深く考えることはなかった。しかし、山屋地区の方々がボランティアで地域の活動を行っていることを知り、地域を盛り上げようとする姿を見て、それらの問題について実際に深く考えることが出来た。

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

新庄市 マルシェ“本活プロジェクト” ～本と人をつなげる出前図書館～



目的・概要 毎月第3日曜日は、新庄エコロジーガーデン内で行われる「kitokitoマルシェ」(手をかけ育てられた野菜、こだわって作られた食べ物、素敵な雑貨や小物が揃う市場)の日。市立図書館も移動図書館車「かやの木号」に本とお話をのせ、出前図書館として参加しています。市民活動と連携を図りながら、新庄・最上の人々の暮らしに届いた「kitokitoマルシェ」という素敵な空間に向き、本と人をつなげ、毎回新しいことにチャレンジし、待つだけの図書館から積極的に情報を発信する図書館として活動しています。またカフェに隣接した「kitokito books」にも協力し、本と人を結ぶコミュニティ作り(本活)を行っています。図書館から飛び出し、青空の下季節を感じながら、お話し会をしたり、ワークショップを行ったり、出店している生産者の方々とコラボレーションなど、大学生の視点と感性で、「kitokitoマルシェ」出前図書館での本活と一緒に企画運営してみませんか!

1回目の訪問

平成29年5月20日、21日

1日目 図書館オリエンテーション
「kitokitoマルシェ」会場視察
(新庄エコロジーガーデン内)
読み聞かせ講座
ワークショップ準備など

2日目 「kitokitoマルシェ」参加
出前図書館体験
kitokito books サポーター

2回目の訪問

平成29年6月17日、18日

1日目 読み聞かせ実践
ワークショップ企画準備

2日目 kitokitoマルシェ出前図書館運営
図書館ワークショップ出店
kitokito books サポーター

講師・担当者

新庄市立図書館 館長 高橋一枝
図書館ボランティアサークルかやのみ会

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

昨年の受講生の感想 文学部 酒井 直子

私は、新庄市立図書館長の「小さな図書館ではあるが、大きく発信したい」という言葉に感銘を受けた。kitokitoマルシェは5年前から開催されて以来、毎年来場者数を伸ばし、この移動図書館によって、普段図書館に行かない人が気軽に立ち寄り、本に触れることができる。私はkitokitoマルシェに参加している最中、新庄市と私の地元のことを考えていた。地域の活性化が見込めるようなイベントや取り組みを私の地元でも行ってみたいと思った。



目的概要

目的：山間地の自然の中で、いろいろな体験を通して、人間本来の生活の仕方を考え、今後の生き方を模索する。

概要：「畑の体験」「山菜の学習」「縄ないの実習」「ホームステイ」「地域の人々・子どもとの交流」「調理実習」「川の生き物調査」

授業計画

1回目の訪問

平成29年6月24日、25日

- 農業体験「川の生き物調査」
- 山菜の学習
- 縄ないの実習
- 地区民との交流
- ホームステイ

2回目の訪問

平成29年7月8日、9日

- 収穫体験
- 調理実習
- 笹巻づくり
- リース作り
- 子どもとの交流
- ホームステイ

講師・担当者

須藤功、石井芳五郎、
斎藤正昭、須藤幸一、
岸浩樹、岸末吾、
樋口勝也、中野光雄、
柿崎喜一、岸吉三郎

担当者

道草ぶんこう運営委員会、金山町教育委員会



目的概要

目的：地元史跡保存会のガイドの元、散策道や坑道の整備活動を通して、谷口銀山が繁栄していた当時の様子を探ることを目的とする。

概要：金山町に現存する、谷口銀山跡に入り、銀山の歴史を体感して頂きます。地元の有志で構成される「谷口銀山史跡保存会」の会長から銀山の歴史を学び、同時に銀山周辺、坑道内の整備活動を体験し、歴史的・地域資源の保存と活用について模索していきます。

授業計画

1回目の訪問

平成29年5月13日、14日

- 講義「谷口銀山の歴史講座」
- 銀山内部とその周辺の探索
- 吉次山登山
- 坑道内周辺の環境整備
(坑道内の清掃など)

2回目の訪問

平成29年7月8日、9日

- 銀山坑道周辺整備(草刈り等)
- 坑道入口の整備
- 保存会メンバーとの交流会

講師・担当者

谷口銀山史跡保存会 会長 近岡榮一

担当者

金山町教育委員会

講師・担当者

友達に誘われて、「単位も楽に取れて、ぼぼ遊びみたいなものだ。」という軽い気持ちで参加しました。しかし、金山町の魅力に触れる中で、この活動に対する好奇心が沸き、「もっと金山町は有名になってもよいのでは？もっと外の人にとってほしい。」という思いに駆られました。地域活性化を考えることは自分の成長につながりました。学生が地域の方と深く議論することが毎年巡っていくなら、私たちの活動は社会的に大きな意味を持つと思います。

講師・担当者

理学部 堀江 湾也

森と人との共存を考える I ～山間地の歴史を探り地域振興へ～



目的・概要

遊学の森は、金山町有屋地内であり、森と人との共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域振興へ・生物多様性から地域振興へ・地域の衣食住の伝承から地域振興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積されれば地域活性化の一助につながると考えております。そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと思っておりますので、皆さんのお知恵と行動力に期待しています。

授業計画

1回目の訪問

平成29年5月13日、14日

- 講話 「金山町の自然を知る」
- 実習 地域探検
- 実習 食の体験(山菜)

2回目の訪問

平成29年6月10日、11日

- 講話 「有屋地域の文化に触れる」
- 実習 下向まつり
- 実習 有屋少年番楽伝統芸能に触れる

講師・担当者

遊学の森案内人会 会長

星川 隆弘

担当者

遊学の森案内人会

昨年の受講生の感想 人文学部 遠藤 李

ビオトープ見学をとおして、きれいな自然の風景を維持するために多くの時間やお金が使われていること、そして、自然を壊すことなく共存するには、人間が手をかけ続けなければならないことを知りました。金山町のみなさんが、自然や食べ物、人とのつながりを壊すことなく守ってきたこと、外人の受け入れを積極的に行ってきたことを知り、昔ながらの姿を守りつつ、新たな姿へと変わろうと努力していることが金山町の良さであると感じました。

大場満郎氏の冒険の心に触れ、 最上を体感しよう！ I



目的・概要

目的：北極・南極を世界で初めて単独横断に成功した世界の冒険家、大場満郎氏の冒険心に触れるとともに、冒険疑似体験を通して人生観を広げる。また、子ども達とともに様々な暮らし体験を通して、社会性や感受性を高める。最上町の観光地である前森高原を体験し、最上の良いところを体験する。
概要：大場満郎氏がコーディネーターを務める放課後子ども教室にも教室に参加し、子どもたちとともに体験する。それを通して、子どもの成長に触れることで社会性や感受性を高める機会とする。大場満郎氏の冒険体験談や同氏の冒険疑似体験を通じて、人生観を広げる機会とする。乗馬体験など最上町の前森地区の魅力を体験する。

授業計画

1回目の訪問

平成29年5月20日、21日

- 1日目 放課後子ども教室事業に参加(田植えを予定)
大場満郎氏による講話
前森高原コテージに宿泊、自炊
- 2日目 前森地区体験
(前森高原各施設体験)

2回目の訪問

平成29年6月17日、18日

- 1日目 放課後子ども教室事業に参加(プログラム未定)
前森高原コテージに宿泊、自炊
- 2日目 冒険疑似体験(トレッキング)
ピザ作り等体験

講師・担当者

冒険家
地域の方々

大場 満郎

担当者

最上町教育委員会 教育文化課社会教育係

昨年の受講生の感想 地域研究文化学部 橋本 海斗

率直に、自然は申し分ない美しさと迫力があり、言葉を失うことが多々あった。自然だけが最上の魅力かと思ったら、住民の方々の明るさや笑顔も魅力の一つだった。非常に充実していて、また来たいと思える魅力的な町だった。問題は人口減。大きな変革をするのはリスクが伴い、時間も必要なので、言葉では簡単に言っても難しい。このフィールドワークで、私は無力感と悔しさを感じた。自分にとっては、それが一番大きな収穫だった。



目的概要

目的: 山形県神室少年自然の家主催事業への参加し、地域の自然や人々とふれ合ったり、子どもたちの体験活動を支援したりする立場を通して、自らの豊かな感性と社会性を磨く。

概要: 実際に主催事業の運営に携わることで様々な自然体験活動を通して自分自身が自然の素晴らしさを感じたり、子どもの変容や学びを支えることで学び手としての自分自身を見つめたりして、今後自己を磨いていくきっかけづくりにする。

授業計画

1 回目の訪問

平成29年6月10日、11日

主催事業 「わんぱく探検隊①」
 ・小学3・4年生を対象事業の支援
 ・班付きスタッフ ・野外炊飯
 ・テント泊 ・仲間作りゲーム
 ・トレッキング など

2 回目の訪問

平成29年7月8日、9日

主催事業 「わんぱく探検隊②」
 ・わんぱく探検隊①と同じ児童の支援
 ・班付きスタッフ ・野外炊飯
 ・テント泊 ・川遊び
 ・トレッキング など

講師・担当者

山形県神室少年自然の家 職員

担当者

山形県神室少年自然の家 研修主事 福澤徹

昨年の受講生の感想 医学部 西口 茉優

これまでは、自分が習ってきたことに対する積み重ねが学習で、それが「学ぶこと」でした。しかし、今回の活動は、全く知識も技量もない、初めての経験尽くしで、本当に参加してよかったと思います。「まずは体験してみる」ということが多く、将来、医者となって子どもと接するとき、体験したのとならないのでは大きな差があると思います。自分の将来の糧になると同時に、自分の行動のあり方を見つめ直す良い機会となりました。



目的概要

目的: 大蔵村の歴史や文化を、地域の方々と関わりを通して、自然と共存して生きる人々から生活と知恵を学び、村の伝承の踊りである合海田植え踊りについて学び、実際に練習してみます。1回目は、肘折温泉で観光に携わっている方から、温泉の歴史や、散策しながら観光について学習をしていただき、肘折温泉の発見の謎が隠されている「地蔵倉」へのミニ登山などを行います。また、山形県史跡名勝地の清水城址、日本棚田百選に認定された「四ヶ村の棚田」などを巡ります。2回目は、「大蔵村自然塾」で地元の子どもと交流しながら森林学習をしたり、400年の伝統を誇る合海田植え踊りに取り組み、地域に根づく伝承・伝統行事を通じて、村の文化に触れる事業を展開します。

授業計画

1 回目の訪問

平成29年5月27日、28日

「肘折温泉街を歩こう」
 ・地蔵倉散策
 「村の歴史と文化財を学ぼう」
 (清水城址、巨木観察、四ヶ村の棚田)
 ・合海田植え踊りを知る。

2 回目の訪問

平成29年6月3日、4日

大蔵村自然塾(森林体験)
 合海田植え踊り練習および参加

講師・担当者

大蔵村自然塾 山形大学農学部 野堀嘉裕
 合海田植え踊り保存会 松田与一
 大蔵村観光ガイド 佐藤剛夫
 村文化財保護委員長 熊谷勝保

担当者

大蔵村教育委員会 生涯学習係 佐藤美輝

昨年の受講生の感想 理学部 湯淺 春香

大蔵村に来て、最も感じたことは、人の温かさと自然の豊かさです。皆さん気さくに話しかけてくれて、大蔵村には人の心を優しくする何か不思議な力があるんじゃないの？とも思いました。この不思議な力は、大蔵村の豊かな自然から来ているのだと思います。もう一度訪れたい！と思わせてくれる村でした。次に行った時には、また新しい大蔵村の良いところを発見したいです。そして、お団子を食べながら足湯に浸かって、景色を楽しみたいです。





目的・概要 四方を山々に囲まれた角川地域は豊かな自然に恵まれ、山菜・キノコや林産物など山からの恵みが豊富です。この里地里山を守り、里山の資源を利用する活動に取り組む。里山のナラ枯れ防止にも資する炭焼き、キノコ原木の調達やなめこの植菌、杉林の枝打ち・間伐、木工細工、山菜採り・山菜料理づくりなどの活動を体験する。

授業計画

1 回目の訪問

平成29年5月27日、28日

1 日目 地元産そばを材料にした手打ちそば作り
里山自然観察と山菜採り(わらび等)

2 日目 山菜を使った料理作り
キノコのほた木の搬出
キノコの植菌

2 回目の訪問

平成29年6月24日、25日

1 日目 山菜採り(みず等)と山菜料理作り
杉林の除伐・間伐

2 日目 炭焼き材の切り出し・木割り・運搬
間伐材を使った施設の修繕

講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局スタッフ
及び角川地区の講師

担当者

田舎体験塾つのかわの里

昨年の受講生の感想 人文学部 大竹 奈緒

中学生の頃、学校の野外活動で訪れていたため、私が戸沢村を訪れるのがこれが初めてではなかった。仙台の学校や山形の大学など、戸沢村では、外から人を呼ぶ取り組みを積極的に行っている。山菜料理作りは、普段あまり食べることのない山菜の調理法を学び、味も美味しく、家でも作ろうと思うほどだった。懐かしい気持ちになりながら、自然のもので新しいもの作り出す楽しさを感じた。学んだことを活かして、今の自分にできることをしていこうと思った。



目的・概要 当地域で栽培されている夏から秋に採れる野菜づくりに挑戦する。定植や種まきの方法、管理の方法を学ぶ。野菜の持つ栄養価・滋養効果や郷土料理に隠れた暮らしの文化を学ぶ。一回目は、そば打ち体験(できたソバで昼食)、畑づくりや苗の定植。最上伝承野菜になっている戸沢村の特産品「エゴマ」の加工場視察、エゴマの定植。二回目は、野菜の収穫及び郷土料理作り、成長した野菜の管理(整枝・誘因・除草など)秋野菜の定植・播種作業を行う。

授業計画

1 回目の訪問

平成29年6月10日、11日

1 日目 そば打ち体験
野菜の畑づくり・苗の定植・種まき

2 日目 エゴマ加工場の視察
エゴマ苗の定植作業

2 回目の訪問

平成29年7月8日、9日

1 日目 野菜の収穫とそれを使った郷土料理作り
野菜の管理作業(整枝・誘因・草取りなど)

2 日目 野菜苗の仮植
秋野菜の定植・播種作業

講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局スタッフ
及び角川地区の講師

担当者

田舎体験塾つのかわの里

昨年の受講生の感想 地域教育文化学部 吉田 真太郎

私は、山形県民でありながら山形のことをあまり詳しく知らないで、このフィールドワークをとおして山形のこともっと知りたいと思い、参加しました。そば打ち体験で訪れたそば屋さんは、民家の1階部分を店としており、お客さんと店員さんが楽しそうに話していて、田舎の店ならではのアットホーム感があっていいなと思いました。郷土料理の笹巻き作りでは、不器用なのでびつな形になってしまったのですが、それがまた面白かったです。

七所明神伝説と
地域活動のあり方を探る

目的・概要
七所明神は、十六代天皇の皇子である大山守皇子の体を七つに斬り、それぞれの部位が祀られているという由来のある神社である。新庄市を中心に七ヶ所の七所明神があるが、その一つが新庄市宮内地区にある。宮内地区には皇子の頭の部位が祀られているという。そういった七所明神の伝説に触れ、学んでもらい、そして、御祭燈祭りや伝統工芸の制作などを通して、新庄市宮内地区における地域活動のあり方を探ってもらおう。

授業計画

1回目の訪問

平成29年10月28日、29日

1日目 講話「七所明神について」
七所明神巡り

2日目 萱刈作業
芋煮
絵馬製作

2回目の訪問

平成30年1月13日、14日

1日目 御祭燈祭準備
もちつき体験
御祭燈祭

2日目 御祭燈祭後片付け
伝統工芸(はげご)製作
活動に対する感想と提言

講師・担当者

七所明神の環境を良くする会 代表 叶内克和

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

昨年の受講生の感想 工学部 早坂 龍

山形ならではの伝統を体験させていただき、特に、料理は初めてのことがばかりでした。芋煮や納豆汁など、普段は作らない料理を一から教えていただき、とても山形を感じる事ができました。また、伝統工芸品の「はげご」作りでは、若い人にもなじみやすく簡単にできるように工夫してありました。フィールドワークとおして、人の温かみや地元を愛する気持ちを感じました。人が都市部に流れていく中で、こういった活動が必要だと考えます。

新庄伝統の民俗文化を体験しよう
～隠明寺風と昔語り～

目的・概要
自然豊かな新庄には、数多くの伝統文化が現代まで伝えられている。それらを保存・伝承している団体とともに活動を行うことで、地域の伝統文化への理解を深めることを目的とする。
1 回目は山形を代表する風である『隠明寺風(おんみょうじたこ)』について、その歴史を学び、実際に風を制作する。
2 回目は新庄・最上地域に伝わる『民話』について、講義、実習をおとして学び、民話を生かしたまちおこしについて考える。

授業計画

1回目の訪問

平成29年11月11日、12日

1日目 ガイダンス
講義「隠明寺風の歴史について」
実習 隠明寺風制作(絵付け)

2日目 実習 隠明寺風制作(組立て)
風揚げ※
※雨天時は内容を変更する場合があります

講師・担当者

隠明寺風保存会 事務局長 佐々木新一郎
新庄民話の会 会長 佐藤栄一 ほか

担当者

新庄市教育委員会 社会教育課

2回目の訪問

平成29年11月18日、19日

1日目 ガイダンス
講義「新庄の民話」
実習 伝承の民話を聴く&語る

2日目 散策 伝説の舞台となった地を巡る
意見交換「民話を生かしたまちおこし」

昨年の受講生の感想 医学部 廣瀬 和仁

自分で風の絵付けから組み立てまで行った風を飛ばすという体験は、重心に返ったような気分が楽しかった。私たちが飛ばしている風を見て小さな子どもがはしゃいでいる姿を見て、現代の子どもも楽しめる文化なのだと感じた。昔語りでは、古民家の雰囲気、新庄弁、語りかける語り口調、これらの醸し出す優しくゆっくりと時が流れるような雰囲気は、独特で魅力的なものだった。新庄の方々のおかげで有意義な学びができたことに感謝したい。

山間地のお祭りを企画しよう



目的：山間地の伝統文化・お祭りの企画、準備の体験を通して、地域づくり、絆づくりを考え、今後到来する高齢化社会の在り方を模索する。

概要：「祭りの企画・会場づくり」「工芸・民芸品作り」「ホームステイ」「地域の人々・子どもとの交流」

目的概要

授業計画

1 回目の訪問

平成29年10月28日、29日

「さわやか祭り」の企画・準備
地区民との交流
ホームステイ

2 回目の訪問

平成29年12月9日、10日

体験「なし団子祭り」
調理実習
クリスマス・正月用リース作り
地域の子どもの交流
ホームステイ

講師・担当者

須藤功、石井芳五郎、
斎藤正昭、須藤幸一、
岸浩樹、岸末吾、
樋口勝也、中野光雄、
柿崎喜一、岸吉三郎

担当者

道草ぶんこう運営委員会、金山町教育委員会

森と人との共存を考えるⅡ ～山間地の文化を探り地域振興へ～



目的：遊学の森は、金山町有屋地内であり、森と人との共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域振興へ・生物多様性から地域振興へ・地域の衣食住の伝承から地域振興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積されれば地域活性化の一助につながるかと考えております。そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと思っておりますので、皆さんのお知恵と行動力に期待しています。

目的概要

授業計画

1 回目の訪問

平成29年12月9日、10日

講話 「金山町の自然を知る」
実習 荒廃した森林で鳥取りリース
づくりを楽しむ
実習 伝統芸能「柳原番楽」の見学

2 回目の訪問

平成30年1月6日、7日

講話 「金山町の歴史民俗」
実習 里山の食文化「餅つき」など
実習 クロスカントリースキー体験

講師・担当者

遊学の森案内人 会長 星川隆弘

昨年の受講生の感想 人文学部 櫻井 大智

金山町の魅力は、金山町には「田舎らしい田舎」というロケーションが存在していることである。都会に住む人が想像する田舎の姿があることは、最大の魅力の一つだと感じた。また、金山町の人々は、伝統的な行事やイベント等に積極的に参加しており、スノーレッキングツアーや、特産の金山杉を使ったチェーンソーアート競技会など、様々なことを行っている。人と人や自然、伝統、スポーツなど様々なものとの繋がりが息づいていることを感じた。

担当者

遊学の森案内人

大場満郎氏の冒険の心に触れ、 最上も体感しよう！2



目的・概要

目的：北極・南極を世界で初めて単独横断に成功した世界の冒険家、大場満郎氏の冒険心に触れるとともに、冒険擬似体験を通して人生観を広げる。また、子ども達とともに様々な暮らし体験を通して、社会性や感受性を高める。最上町の観光地である前森高原を体験し、最上の良いところを体験する。

概要：大場満郎氏がコーディネーターを務める放課後子ども教室に参加し、子どもたちとともに体験する。それを通して、子どもの成長に触れることで社会性や感受性を高める機会とする。大場満郎氏の冒険体験談や同氏との冒険擬似体験を通じて、人生観を広げる機会とする。乗馬体験や陶芸体験（変更の可能性あり）など最上町の前森地区の魅力体験する。

授業計画

1回目の訪問

平成29年10月28日、29日

1日目 放課後子ども教室事業に参加
(プログラム未定)
大場満郎氏による講話

2日目 前森地区体験
(前森高原各施設体験)

2回目の訪問

平成29年11月25日、26日

1日目 放課後子ども教室事業に参加
(プログラム未定)

2日目 冒険擬似体験(トレッキング)
ピザ作り等体験

講師・担当者

冒険家 大場 満郎
地域のの方々

担当者

教育委員会 教育文化課社会教育係

昨年の受講生の感想 医学部 佐藤 由理

ワールドエドベンチャースクールは、子どもたちが学校では学ぶことのできないことを人生の先輩たちに教えてもらう貴重な場だ。大根収穫・手売りでは、食のありがたみをみんなで再確認し、江戸時代の農機具体験や餅つきなど、便利になった世の中では体験できないことを体験できる良い機会だ。学校も学年も異なる子どもたちが集まり、自由に活き活きと活動する姿が印象的で、自然の中で目一杯友達と遊びながら学んでいく時間の大切さを感じた。

里地里山の再生Ⅱ



目的・概要

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得すること目的とする。荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめることを目標とする。

- 地域学講座(地域の方との懇談会)
- 生物多様性の環境保全活動
- 食と農の体験活動

授業計画

1回目の訪問

平成29年10月28日、29日

手倉森・シイタケ、ナメコの収穫活動
堀内地区：大根、白菜などの収穫活動

2回目の訪問

平成29年11月18日、19日

舟形小学校：森の積木広場体験
堀内地区：大根、白菜など収穫体験

講師・担当者

会員及び地域住民

担当者

堀内ファーム事務局 大山邦博

昨年の受講生の感想 理学部 今井 雅人

農業を実際に行っている人たちの声を聞くことで、多くの課題があることを知り、それを解決することがいかに難しいかを感じました。町の現状を目で見るために街を散策し、鮭の放流場所の見学、文化見学を行いました。鮭は自分たちで開き調理し、料理や収穫をとおして町のつながりの深さや温かさに一層触れることができました。これらを守っていくためにも、受講生の提言をとおして、活発な地域づくりをしていけたらと感じました。



目的概要

目的：山形県神室少年自然の家主催事業への参加し、地域の自然や人々とふれ合ったり、子どもたちの体験活動を支援したりする立場を通して、自らの豊かな感性と社会性を磨く。

概要：実際に主催事業の運営に携わることで様々な自然体験活動を通して自分自身が自然の素晴らしさを感じたり、子どもの変容や学びを支えることで学び手としての自分自身を見つめたりして、今後自己を磨いていくきっかけづくりをする。

授業計画

1回目の訪問

平成29年12月9日、10日

主催事業 「親子ふれあいキャンプ～世代交流編～」運営参加
「里山の年越し文化ものづくり体験」
-小学生とその保護者対象
-班付きスタッフ -しめ飾り作り
-老人クラブの方との交流
-館内調理 など

2回目の訪問

平成30年1月6日、7日

主催事業 「わんぱく探検隊～雪の巻～」運営参加
-小学3・4年生児童のキャンプ活動支援
-班付きスタッフ -館内調理
-テント泊 -雪遊び など

講師・担当者

山形県神室少年自然の家 職員

昨年の受講生の感想 農学部 岩谷 英孝

私が感じたことは、時には子どもと同じ目線、時には子どもを教える目線で接することでした。そのためには、自分自身が、常に広い視野を持っておく必要を感じました。活動以外にも、「班の全員が食べ終わるまで席を立たない」など、「将来子どもたちの人生に役立つことを教える」ことを教えることについて学びました。自分が今していることの本当の意味、何のためにしているのか、この考え方はとても大切にしていきたいです。

担当者

山形県神室少年自然の家 研修主事 柿崎健



目的概要

自然環境保全体験(米湿原収穫祭) / 自然保護活動を行っているモデル地区・鮭川村米地区で環境保全体験と収穫祭に参加することで、環境面から地域を維持していく大切さを学びます。

鮭川村総合型地域スポーツクラブ参加体験 / 幅広い世代の人々が様々なスポーツや文化に触れる機会を提供する地域密着型クラブのイベントに参加することで、世代との交流や地域の活性化について考えます。

授業計画

1回目の訪問

平成29年10月28日、29日

自然環境保全体験(米湿原収穫祭)
-里地里山の環境保全体験(湿原整備等)
-鮭川村の自然学習講話
-米収穫祭への参加
-もちつき
-茶会(野点) ※雨天中止

2回目の訪問

平成29年12月16日、17日

鮭川村総合型地域スポーツクラブ参加体験
-総合型地域スポーツクラブについての説明
-ブースの企画、発表(活動2回目の前に受講生の皆さんから考えてもらいます。)
-イベントの準備、運営
-ソフトバレーボール大会への参加

講師・担当者

ネイチャーアカデミーもがみ 代表理事 矢口末吉
鮭川村自然保護委員会 会長 高橋 満
さげがわ友遊CLove クラブマネジャー 阿部 諭

Newプログラム

このプログラムは初めて実施されるプログラムです!

担当者

鮭川村教育委員会

戸沢村 里山保全とキノコ料理



目的・概要 四方を山々に囲まれた角川地域は、里山からの恵みが豊富である。この里地里山を守り、里山の資源を利用する活動を行う。里山のナラ枯れ防止対策にも資する炭焼き材の切り出し、森林の管理作業、木工細工、きのこ採り、きのこ料理作りなどの活動を体験する。

授業計画

1 回目の訪問

平成29年10月28日、29日

1 日目 地元産「最上早生」のそば打ち体験
炭焼き材の切り出し・木割り・運搬

2 日目 キノコ採り、キノコ料理づくり
キノコの植菌

講師・担当者

田舎体験塾つのかの里事務局スタッフ
及び角川地区の講師

担当者

田舎体験塾つのかの里

昨年の受講生の感想 地域教育文化課 北村 真葉

普段の座学とは違う生きた活動だった。戸沢村の方々は、私達が学習しやすいよう、かつ無理をしすぎないように何度も声をかけてくださった。おかげで、私達もその気持ちに応えられるよう真剣に取り組む気持ちで、お互いに教え合う姿勢も大切にしながら活動できた。非日常の空間において、人と関わろう、この地の良さを知らうと強く意識して生活したことで、私はそれを経験として感じることができた。そのこと一つを取っても大きな収穫である。

戸沢村 創作太鼓と里山ぐらし体験



目的・概要 角川地域の学校教育で始まった和太鼓演奏が地域の保護者をも巻き込み、平成9年に「角川太鼓の会」が結成され活動を続けている。農山村の趣向を取り入れた演奏曲をつくり、イベントなどで好評を博しており、これらと太鼓の魅力を体験する。冬の里山暮らし体験は、農山村の冬の暮らしの一部を体験して頂き、今日に引き継がれている農山村の文化に触れて頂く。また、角川地区の冬のイベント「角川雪回廊物語」で展示される「雪絵灯籠」の作成を行う。

授業計画

1 回目の訪問

平成29年12月9日、10日

1 日目 そば打ち体験
雪絵灯籠づくり

2 日目 角川太鼓演奏の披露
太鼓基礎練習
曲演奏練習

講師・担当者

田舎体験塾つのかの里事務局スタッフ
及び角川地区の講師

担当者

田舎体験塾つのかの里

2 回目の訪問

平成30年1月20日、21日

1 日目 餅つき、蕎麦づくり、かまくら作り
かんじきハイキング
御柴灯（火よけの催事）

2 日目 太鼓の曲練習
太鼓演奏の発表

昨年の受講生の感想 人文学部 宮本 真帆

かまくらを作るのも、かんじきを履くのも初めてで、思わず童心に帰った。雪深い土地の人からすれば悩みの種だろうが、雪の降らない土地の人間からすれば、最上地方の綺麗な雪は魅力的だった。本格的な太鼓に触ること自体が初めてだった。大迫力の太鼓の響きによる心地よさと高揚感は生演奏でなければ味わえないだろう。全体的に楽しく良い雰囲気の中で練習させていただき、この雰囲気の良いさも含めて、今後も続けてほしい活動だと思った。